

第12回一関市総合教育会議 会議録

- 1 会議名 第12回一関市総合教育会議
- 2 開催日時 令和2年12月4日(金) 午前10時00分から午前11時35分まで
- 3 開催場所 一関保健センター 栄養指導室
- 4 出席者

- (1) 構成員

勝部修市長、小菅正晴教育長、千葉和夫教育委員、佐藤一伯教育委員、伊藤一志教育委員、桂島加奈子教育委員

- (2) 事務局等

市長公室長、市長公室次長兼政策企画課長、政策企画課政策推進係長、政策企画課主任主事、まちづくり推進部次長兼スポーツ振興課長、まちづくり推進部いきがづくり課長、教育部長、一関図書館長、教育部次長兼教育総務課長、教育部次長兼学校教育課長、教育部次長兼文化財課長兼骨寺荘園室長、一関市博物館次長、教育総務課長補佐兼庶務係長

- 5 議題

学校の働き方改革を踏まえた中学校部活動の在り方について

- 6 公開、非公開の別 公開

- 7 傍聴者の数 報道 3社

- 8 挨拶

市長挨拶

今回で12回目となり、これまで様々な課題について懇談してきたが、教育という大きな括りの中での意見交換ができる重要な機会だと捉えている。今回のテーマは「学校の働き方改革を踏まえた中学校部活動の在り方について」を議題にするわけだが、今避けて通れない新型コロナウイルス感染症対策についても、学校を含む地域社会の共通の課題であると考えている。拡大傾向にある現在の状況を鎮静化させていかなければ、拡大する一方であり、専門家会議の見方も同様である。今までにないウイルスとの戦いであり、決して甘く見ず、学校を含んだ地域社会全体の問題として捉え、可能な限り現場と情報共有しながら地域として感染症対策に取り組んでいく必要があると考えている。

- 9 懇談

教育長 今日「学校の働き方改革を踏まえた中学校部活動の在り方について」を懇談テーマに進めさせていただく。

部活動については、教員の働き方改革に関連して、非常に大きな転換期を迎えようとしている。国からの通知にも触れながら、今後の部活動の在り方について意見交換を行いたい。

最初に教育委員から部活動の経験や思いを話していただきたい。

佐藤委員 中学校時代は野球部に所属していた。顧問が美術の先生だったが、雨が降ると図書室から本を借り美術室で読書をしたり、生徒も協力しながら毎年文集を制作したりするなど、野球に関わること以外の思い出も多い。現在は部活に関わっていないが、妻

が中学校吹奏楽部の外部指導者を行っている。週末の部活は土曜日のみであるが、育成会が整い、先生の働き方改革に基づいた取り組みがされつつある。これからの部活動に地域として協力し、先生に負担のない中でいい部活動ができるように協力していくべきだと感じている。

千葉委員 中学校時代は卓球部に所属していた。毎日充実しており、授業のためではなく卓球のために学校へ行くというのが本音だった。チームで力を合わせて上位進出を目指すという一体感や充実感は最高のものであった。その経験もあって、教員になり部顧問になった時は、県大会上位進出を目指して生徒と関わりながら活動し、毎日とても充実していた。退職後はラージボール卓球を始め、週に2、3回の練習、年に10回以上の大会に参加している。私の人生が充実しているのは、中学時代の部活動が根本にあって、それが私の人生全体を輝かせてくれたと認識しており、学校における部活動の意義は非常に大きいものがあると感じている。

桂島委員 中学校時代ですが、顧問は競技経験がなく外部指導者に指導されていた。外部指導者は週一度の指導であり、それ以外は生徒が自主的に練習を考え行っていた。今の先生は、平日も土曜日にも指導があり、育成会の練習にも関わるのであれば、休む時間がないのではないかと心配している。先生には、部活動の改革を踏まえて、しっかり休養を取っていただき、心身健やかな状態で生徒たちに臨める体制を作っていただきたい。

伊藤委員 部活動は健全育成であり、教育の一環として教育的指導、教育的配慮が必要不可欠であると感じる。教員となった時代は、学校が荒廃していた。バブルが弾け、何にでも恵まれるような状況の中で、傍若無人に振舞う生徒が増え、学校での素行が粗暴になり、抜け出しや対教師暴力、喫煙、器物破損等がどこの学校でもあったように思う。家庭も崩壊していて親と子の立場が逆転、子育てを諦めるような家庭もあった。そのような中で、生徒のエネルギーをどのように発散させるかという、課外活動時間帯で特技や趣味を生かせるようなものは部活動であったと思う。顧問の先生や外部指導者の指導を受け、クラブでの所属感を味わい、技能を習得しながら自分を高め、チャンスがあれば大会に参加をして勝つ喜び負ける悔しさを味わいながら、心豊かに成長していくのが部活動だと感じている。部活動の果たす役割は非常に大きかったと感じており、時代は変わっても情熱を持って生徒を指導していけば、生徒の大きな変容が得られると思う。

教育長 教育委員からの話を聞いて市長から感想等をいただきたい。

市長 部活動に対する向き合い方が素晴らしいと思う。私の場合は、顧問の先生が専門外であり、道具も十分ではなかった。指導者に恵まれず、警察署に出向いて実技を教えてもらったりしていた。今思うと部活動で、良いひと時を過ごせたと感じている。

教育長 現状の部活動の状況について、情報を共有したい。

学校教育課長：資料No.1－1により一関市立中学校の部活動概況を説明
資料No.1－2により部活動の在り方に関する方針を説明
資料No.1－3により部活動方針に基づく部活動状況を説明

教育長 実際に現場で抱えている課題、現状について話していただく。

一関中 常設部は運動部が8、男女別だと12となり、文化部が2つで合計14となっている。その他、大会時期に合わせて特設部を設置している。常設部への加入は、原則一人一つの部に所属することとしているが、自主的・自発的に活動する意志のある本人の希望を尊重する視点から、学校外で定期的に活動する場合は、本人と保護者からの申し出があり、一定の条件を満たしていると判断した場合は常設部に入部しなくてもよいこととしている。実際には10名に満たないが、常設部に加入していない生徒もいる。

課題として、生徒数が減少しており運動部の団体戦ではギリギリの人数となっている部もある。今後も生徒数は減少していくので、部の数を減らすことを検討していかなければならない。また、ここ3年間で学級数が3減るため、教員が4名減る状況となっており、部活の顧問の在り方についても検討していかなければならない。

当校でも、市の方針に基づいて、部活動の在り方に関する方針を定めており、週2回の休養日、平日2時間程度の活動は定着しており、その点は生徒の健全育成、教員の働き方改革は進んでいると思う。ただし、土曜日と平日の16:45以降は勤務時間が割り振られていない時間となっているので、引き続き教員の負担軽減のための部活動の在り方については検討していかなければならないと考えている。

教育長 学校外での活動というのは、どのような種類の活動か。

一関中 水泳、陸上、ラグビー、ダンスなど常設部にはない種目で活動をしている。

大東中 常設部は運動部が7、男女別だと10となり、文化部が2つで合計12となっている。特設部として陸上、駅伝を設置している。学校外の活動に参加することで常設部に代えることとはしておらず、全員加入制をとっている。現状では3年生が抜けたことによりチームとして大会に参加できない部もあり、また、学年によって人数にバラつきがある。

本校の特徴として、近隣に設置されていないソフトボール部があるため学区外から入学し活動を行っている生徒も少なくない。一関市はソフトボールが盛んな地域であるが、メンバーが不足する学校も増え、合同チームを組んで大会へ出場するという学校も多くなってきている。

教育長 合同チームはどのような形で練習、大会へ出場したのか。

大東中 平日の練習はそれぞれの学校で、3、4人で出来る練習を行い、週末に合同練習を行ったり練習試合を行ったりしている。新人戦では5校の合同チームで大会へ参加しているチームもあった。

教育長 生徒数の減少により、合同部活動を考えざるを得ない状況についても併せてお話しいただいた。市内学校で行われている部活動の状況を撮影してきたので紹介する。

(部活動場面ビデオを視聴)

教育長 映像を見て生徒たちの自主性や生き生きとしている姿が伝わるようであった。インタビューにもあったが、部活を通じて自分たちが成長してきていることを実感しているという内容もあった。ただし、少子化や生徒のニーズの多様性、教員の働き方改革など変革を迫られるような時代背景になったと感じているのいかがか。

千葉委員 生徒が部活動に生き生きと取り組んでおり、改めて部活動は大切だと感じた。その反面、一つの学校だけでチームが組めない状況、学校外の活動をもって部活動と認め

ていることなどの課題があり、学校が多様化してきていると感じた。

桂島委員 平日の勤務時間外や週末など、生徒の部活動を指導する先生には感謝している。先生の休みがしっかり取れるよう、部活動改革を実現してほしい。

市長 生徒数の減少により、単独でチームを編成できないという現状は聞いている。今後、生徒数の減少により学校統合が進むとすれば、部活動という形を根本的に考え直さなければならぬと思う。部活動の意義は非常に大きいものだと思うが、現実的に限界が来るということを直視しなければならない。学校の管理下を離れたクラブでの活動など、今はなんとなく認めている部分があるが、しっかりとした仕組みを作る時期が遠くないうちに来ると感じている。学校任せにせず、行政が仕組みを作らなければならない。学校が学校管理外の活動にどのように関わるかなど、クリアしなければならない課題もあるが、クリアするのを待つとなかなか前に進まないという状況も考えられる。遠くないうちに仕組みを検討し、実施する時期に入ってきているのではないかと考える。

教育長 学校の働き方改革を踏まえた部活動改革について、国から一定の方向性が出されている。

学校教育課長：資料No.1－4により学校の働き方改革を踏まえた部活動改革概要を説明

教育長 部活動改革について意見を伺いたい。

伊藤委員 時代の流れとして当然だと思うが、この改革に必要なのは外部コーチや外部指導者である。勝利至上主義的な傾向に陥るのではなく、心身共に成長させるため教育的な配慮が必要不可欠である。外部コーチや外部指導者については、しかるべき研修を受け、資格を取って指導するという形を作っていければ地域部活動として成り立つのではないかと思う。

教育長 部活動改革の通知の中に運営主体の記載があり「退職教師、地域のスポーツ指導者、スポーツ推進委員、生徒の保護者等の参画や協力を得て、総合型地域スポーツクラブ、民間のスポーツクラブ、芸術団体等が担うことが考えられる。」という通知内容である。事故が起きた場合は「地域部活動の運営主体や大会の主催者が責任を負う。」という記載もあり、細部はこれから議論されることとなる。

佐藤委員 改革は先生の勤務時間の負担を減らし、様々な授業の研究等を行うことにより、生徒の学力向上を狙うという一面もあると思う。学校の本分を達成するためには、これから部活動に対して育成会や指導者のサポートが必要になる。

基本的に常設部に所属することになっているようだが、先生の負担が多くなっている状況であるのに、今も同じような体制がとられているのか疑問に思った。

大東中 本来は自主性を重んじるものとして任意に加入できればよいと考えるが、部活動の意義である健全育成、好ましい人間形成、心身を鍛えるなど、深い教育的価値があることから今の体制となっているのではないかと思う。生徒数の減少により部活動が成り立たなくなり、地域でスポーツや文化活動を行いたい生徒の活動の場がなくなってしまう。その結果、一関市全体の競技力が低下することも考えられる。

改革については時代の流れとして当然だと感じるが、いくつかのステップを踏む必

要があると考え。一つは少人数で活動しているチームを拠点校に集めて部活を行う拠点校方式は可能だと考える。その次の段階として地域で活動する組織を作るのがよいと考える。また、指導者には資格を持たせるべきであり、技術、心理、スポーツ医学、学校教育などに精通していないと生徒の健全育成という面では難しい。この改革は大都市では難しくないだろうが、地方では組織作りから行政で関わっていかねばならないと考える。

一関中 部活動は教育課程外となっているが、学校経営全体を考えたときに生徒の自主的、自発的活動、人間関係を形成していくためには学校にとって必要な活動と捉えている。学校で受け皿を用意して生徒のニーズに応えられればよいが、生徒数の減少により種目数を減らすような検討も必要な現状であり、他の活動を選択する生徒については、その意思を尊重している。

国の方針は理想的ではあるが、大東中と同じように辿り着くためにはかなりのステップが必要であると感じている。これまでも育成会の協力を得て活動しているが、さらに学校と育成会が連携をして持続可能な部活動の体制を作るため、仕組みを考えていくことが求められる。市教委と学校の仕組みを合わせていきながら受け皿を作って、そこに委ねていかないと生徒の健全育成につながらないのではないかと考えている。

教育長 後半は今後の部活動の方向性について議論を進めてきた。

最後に市長から今日のまとめをお願いします。

市長 現在置かれている部活動の実態に目を反らさずに見ていく必要がある。部活動の意義は認めつつも、学校の管理下において行う活動方法とは別に、学校の管理下以外の活動について教育的な意義を持たせる方法もあるのではないか。大きな制度の改革の際は思い切ったことを行うことが必要であり、キーワードになるのは「地域」だと考え、その視点を持ってこれから議論していく必要がある。

10 協議

政策企画課長：資料No.2-1、2-2一関市教育に関する大綱の期間について説明

平成28年策定の「一関市教育に関する大綱」を改定せず、期間を令和3年度～令和7年度とする。

11 担当課

市長公室政策企画課